



島根県神社庁報

第357号
 島根県神社庁
 〒699-0701
 出雲市大社町杵築東286
 TEL 0853-53-2149
 FAX 0853-53-2582

教化委員会出雲部会 第50回参宮旅行



支部だより	15
社ガール通信	14
神社フォトギャラリー	13
神職任免	11
神職身分昇級	10
初任神職研修	9
新任神職紹介	8
神職養成階位検定講習会開催要綱	7
参宮旅行記	5
祈年祭並神宮大麻曆頒布終了祭	4
新年祭	3
竹島領土平安祈願祭並びに 時局講演会について	2

目次



竹島領土平安祈願祭 並びに時局講演会に ついて

島根県神道青年協議会

那賀支部 理事 白須琢朗

去る二月十八日(土)、島根県の制定する「竹島の日」に先立ち「竹島領土平安祈願祭並びに時局講演会」が島根県神道青年協議会(会長 板木厚典)主催のもと執り行われた。例年、島根県神社庁で行われるところ、本年は浜田市の「いわみーる」での開催となった。これは、本年が島根県神道青年協議会の設立五十周年にあたり、その記念事業として、より多くの人の意識を高めるために企画された。



角河庁長玉串拝礼

午後一時半より、角河庁長を始め神社庁役員、各関係団体、県内神社の氏子・崇敬者の参列のもと齋主・安達和巳、祭員・白須琢朗、壺倉祐磨、奏楽・塔畑雄一郎、牛尾麻衣の奉仕により、厳肅な雰囲気の中で祭典が執り行われた。

例年行っている本祭儀であるが、一般参列者を招いての斎行は地域への啓発活動として大きく役立ったのではなからうか。

続いて、会場内舞台転換の後、午後二時半より、島根県竹島問題研究会座長・島根県立大学客員教授を務めておられる、下條正男先生に「竹島問題と日韓の現状」というテーマでご講演をいただいた。

竹島が歴史的に韓国領土であった事実は無く、韓国の主張も尽く覆されてきた等、



下條正男先生の講演

現在に至るまでの詳しい経緯をお話いただき、聴講者も熱心に聴き入っていた。竹島問題について、幾度となく講演や研修を積んだつもりであったが、やはり問題は根深く、我々のみならず日本国民全体で積極的に取り組んでいかなければならない問題だと再認識することが出来た。個人的な事になるが、今回は若い世代にこそ聴いて欲しいと思ひ、愚息を帯同し、準備・祭典参列・講演聴講と経験させたが、これを機に、国について改めて大切に思う心と、国民としての自覚意識を養ってくれたなら親として嬉しい限りである。それと共に今回、ご参列・ご聴講下さった皆様には改めて感謝を申し上げ、またこの事業が今一度領土問題に意識を向ける一石となれば、主催者の末端として幸いに思うところである。

最後に、この祭典を斎行する事の無い日が一日でも早く訪れるようお願い、拙文を閉じた。

新年祭

一月二十四日神社庁神殿において新年祭が角河庁長外関係者参列のもと斎行された。

祭典奉仕者

- 斎主 桑原 秀幸 (鹿足支部)
- 祭員 服部 充雄 (鹿足支部)
- 奏楽 牛尾 充 (浜田支部)
- 牛尾 禎竝 (浜田支部)



木佐総代会長



支部祭式助教研修会

令和四年度支部祭式助教研修会が一月二十八日開催された。牛尾充県祭式講師、森真史、野上郁子県祭式助教の指導の下、十四名の支部祭式助教が一日研修を修了した。





祈年祭並神宮大麻曆頒布終了祭

二月二十一日神社庁神殿において祈年祭併せ神宮大麻曆頒布終了奉告祭が角河庁長外役員支部長参列のもと肅行された。

祭典奉仕者

- 齋主 中田宏記 (大田支部)
- 祭員 山本卓也 (大田支部)
- 奏楽 野上郁子 (那賀支部)
- 壺倉祐磨 (大田支部)
- 石崎彰矩 (大田支部)

令和4年度 神宮大麻及曆頒布実績表

項目 支部	大 麻				大麻 頒布率	過去3年の推移			前年比	曆	
	大 麻 (ふるさと便)	中大麻	大大麻	合計		令和 元年度	令和 2年度	令和 3年度		曆	大曆
松江	8,660 (69)	101	64	8,825	13.5%	9,530	8,876	8,897	△ 72	4	3
八束	8,969 (28)	554	323	9,846	50.4%	10,441	10,296	10,100	△ 254	5	5
能義	2,118 (80)	268	47	2,433	68.0%	2,690	2,627	2,481	△ 48	24	1
安来	3,951 (179)	81	9	4,041	44.0%	4,212	4,144	4,067	△ 26	11	1
仁多	3,287 (230)	41	19	3,347	77.4%	3,708	3,584	3,551	△ 204	0	0
大原	7,741 (137)	72	35	7,848	97.7%	9,051	8,797	8,157	△ 309	303	0
飯石	5,122 (418)	3	5	5,130	76.7%	5,391	5,269	5,170	△ 40	99	1
出雲大社	784 (3)	0	29	813	119.7%	804	800	779	34	0	0
簸川	8,352 (43)	13	93	8,458	48.5%	8,598	8,456	8,364	94	27	1
出雲	14,598 (640)	189	66	14,853	32.8%	15,841	15,083	14,906	△ 53	85	1
大田	5,783 (72)	30	6	5,819	43.9%	6,371	6,118	5,972	△ 153	0	0
邑智	5,390 (0)	29	6	5,425	68.2%	5,992	5,754	5,630	△ 205	17	0
那賀	3,221 (0)	344	15	3,580	66.4%	3,853	3,607	3,587	△ 7	21	4
江津	3,310 (0)	29	0	3,339	41.1%	4,015	3,774	3,488	△ 149	0	0
浜田	5,372 (40)	139	6	5,517	30.9%	6,054	5,842	5,763	△ 246	52	0
益田	7,955 (22)	805	193	8,953	47.8%	9,705	9,311	9,128	△ 175	19	1
鹿足	2,843 (48)	418	83	3,344	56.8%	3,481	3,408	3,322	22	5	2
島前	1,330 (0)	4	1	1,335	47.9%	1,531	1,391	1,375	△ 40	5	2
島後	3,414 (60)	16	3	3,433	58.4%	3,650	3,536	3,455	△ 22	3	1
その他	0 (0)	0	1	1		0	0	1	0	0	0
計	102,200 (2069)	3,136	1,004	106,340	40.0%	114,918	110,673	108,193	△ 1,853	680	23

参宮旅行記

出雲大社支部長 喜和田 公二

新型コロナウイルス感染症により令和二年に予定されていた第五十回の参宮旅行が中止を余儀なくされ三年が経った。その間、我々の生活も一変し、それまで当たり前だと思っていた日々が如何に有難いものであったかという事をしみじみと考えさせられた。この感染症もやがて感染症法上の分類



内宮



が第五類への移行となり季節性インフルエンザ感染症等と同等となる。一日も早く安心できる日常に戻る事を祈るばかりである。さて、神宮の大神様への日々の神恩に感謝し、新しい年のご加護を祈念する「国民総参宮」の主旨の許、四年振りに参宮旅行が実施された。初日は外宮参拝。二日目は内宮神楽殿で大々神楽を奉納し、御垣内参拝と続いた。その後、おはらい町等で買い物や見学を終え愛知県へ入り三谷温泉で宿泊。最終日は熱田神宮で正式参拝。その後、神宮のご厚意により草薙館等を拝観させて

いただいた。二泊三日の強行軍であったが意義深く清々しい気持ちで家路に着いた。この旅行は単なる物見遊山が目的ではなく神宮崇拝と人との繋がりを深める大切な機会である。今後重要な教化活動の一つとして、特に若い世代や新たな参加者に向けての働きかけに努め、先輩方が築き上げて来られた歴史をより実りあるものとしていかなければならないと思う。

最後に、一畑トラベルサービスには並々ならぬご苦勞があつたと思う。様々な感染症対策を講じていただいたおかげで安心安全の中に氏子共々に楽しいひと時となった。茲に厚く御礼を申し上げる。



熱田神宮

令和5年教化委員会出雲部会 伊勢神宮参拝連続参加表彰者名簿

感謝状受領者【一班】(8名)

No.	氏名	支部名
1	総代会 澤田直明	能義支部
2	神職 齋木正保	
3	神職 須山修司	
4	神職 金築 孚	簸川支部
5	神職 稲田昌史	
6	神職 河瀬直明	出雲支部
7	神職 景山敏宏	飯石支部
8	神職 長里 禧臣	

能義支部 = 3名 簸川支部 = 2名
出雲支部 = 1名 飯石支部 = 2名

感謝状受領者【二班】(16名)

No.	氏名	支部名	No.	氏名	支部名
1	総代会 新田清文	大原支部	9	神職 岸 悟	八東支部
2	神職 勝部和承		10	神職 遠藤知己	
3	神職 内田貞文		11	神職 佐草利彦	
4	神職 長妻和夫		12	神職 石原道夫	仁多支部
5	神職 齋藤文崇		13	神職 後藤和彦	
6	総代会 廣江朝夫	松江支部	14	神職 恩田友生	鳥根神社庁
7	神職 青木義興		15	神職 金築知宏	
8	総代会 宇藤志郎	八東支部	16	先導 梶谷 実	

大原支部 = 5名 松江支部 = 2名 八東支部 = 4名
仁多支部 = 3名 鳥根神社庁 = 1名 その他 = 1名

連続参加表彰者【一班】(28名)

No.	連続参加年数	氏名	支部名	No.	連続参加年数	氏名	支部名	No.	連続参加年数	氏名	支部名
1	30年	祝原 聡	飯石支部	11	3年	山本 勝二	能義支部	21	3年	浜村 寛之	出雲支部
2	26年	宮本 誠	能義支部	12	3年	加藤 敏枝		12	3年	石川 和美	
3	21年	岸 フジエ	飯石支部	13	3年	細田 春幸		23	3年	坂本 薫野	
4	20年	山崎 文夫	簸川支部	14	3年	今井 幹雄		24	3年	大和 博見	安来支部
5	20年	郷原 豊	出雲支部	15	3年	上田 一成	25	3年	大和 恵美子		
6	20年	持田 貞子		16	3年	江角 雄二	26	3年	景山 稔	飯石支部	
7	20年	永田 一芳		17	3年	平井 均	27	3年	和泉 盛利		
8	10年	岡 幸市	安来支部	18	3年	福田 富雄	28	3年	安部 智子		
9	10年	本田 正廣		19	3年	今岡 盛久	出雲支部				
10	10年	奈須 環	飯石支部	20	3年	森岡 良男					

飯石支部 = 6名 能義支部 = 5名 簸川支部 = 4名 出雲支部 = 10名 安来支部 = 3名

連続参加表彰者【二班】(27名)

No.	連続参加年数	氏名	支部名	No.	連続参加年数	氏名	支部名	No.	連続参加年数	氏名	支部名	
1	23年	岸本 武志	八東支部	10	10年	松田 芳男	仁多支部	19	3年	内田 松寿	八東支部	
2	23年	岸本 幸子		11	10年	吉川 陽子		20	3年	狩野 和由		
3	21年	宮川由美子	大原支部	12	10年	土屋 武雄		21	3年	宇藤 志郎		
4	21年	三島 敏徳	松江支部	13	10年	園山 美代子	出雲大社支部	22	3年	松崎 正郎	仁多支部	
5	21年	細田 武尚	八東支部	14	3年	安部 厚雄	大原支部	23	3年	松崎 みどり		
6	10年	高橋 日出男	大原支部	15	3年	勝部 由延		24	3年	石原 明		
7	10年	文堀 賢治	八東支部	16	3年	福島 正子		25	3年	原田 勲		
8	10年	岸本 幸夫		17	3年	日野 義友		26	3年	中林 福子		
9	10年	嵐谷 勝義	仁多支部	18	3年	角田 一夫		松江支部	27	3年		内藤 京子

八東支部 = 8名 松江支部 = 2名 仁多支部 = 9名 出雲大社支部 = 2名 大原支部 = 6名

令和五年 神職養成階位検定講習会開催要綱

【主 催】 島根県神社庁

【開講階位・期間】

権正階(乙) 令和五年八月七日(月)

権正階(甲) 令和五年八月二十二日(火)

直階(甲) 令和五年八月七日(月)

直階(乙) 令和五年八月二十二日(火)

直階(甲) 令和五年八月七日(月)

直階(乙) 令和五年八月二十二日(火)

直階(甲) 令和五年八月七日(月)

直階(乙) 令和五年八月二十二日(火)

【開催場所】 『島根県神社庁』

島根県出雲市大社町杵築東二八六番地

【出願条件】

権正階：直階を有し年齢満十八歳以上の者

直階：高等学校以上の学校卒業者又はこれに準ずる学力を有する者で、主催者において適当と認めたる者

※権正階・直階共に三〇分程度の正座ができる者

※分割受講について

当庁では権正階・直階共に甲・乙課程を分割受講することが可能です。但し、全課程(甲・乙)を権正階は三年、直階は二年以内に受講出来る者に限りります。

【募集人数】

権正階二十名・直階二十名

※受講希望者が定員を超えた場合、入所選考を行いますので予めご了承下さい。

※分割受講中の者及び県内在住者(または県内奉職予定者)を優先的に選考いたします。

【受講料】

権正階(甲・乙課程) 各 七五、〇〇〇円

直階(甲・乙課程) 各 七〇、〇〇〇円

※全課程受講した場合

権正階 一五〇、〇〇〇円

直階 一四〇、〇〇〇円

※県内の受講生については、甲・乙各一〇、〇〇〇円の助成をする。

※その他、喫実習費、社頭学習費含む。

※新型コロナウイルス感染症対策の観点より、本年は合宿は行いません。

【出願手続】

1. 提出書類

① 受講申請書

※必ず顔写真貼付、推薦欄には奉職予定神社宮司の推薦を記載して下さい。

② 履歴書(市販履歴書可)

③ 書籍申込書

④ 受講資格証明書類

・ 権正階：直階階位証写し

・ 直階：高等学校以上の最終学歴卒業証明書写し(又は卒業証書写し)

⑤ 返信用封筒

※角形3号封筒(B5版)に自分の住所・氏名を表記し、二五〇円切手を貼付して下さい。

⑥ 推薦書(当該都道府県神社庁長及び支部長用)

※支部長が『推薦の事由』に記載した上で署名、押印願います。

2. 申込期限

六月十六日までに支部経由(他県は神社庁経由)にて島根県神社庁必着。

※期限を過ぎた申し込みは、受講許可通知の発送期日等に影響し、全ての受講生に迷惑が及びますので締切厳守願います。

【宿 泊】

神社庁には宿泊施設が無いため通講制での講習となりますので、各自手配願います。

※ご希望の方には出雲市内のホテルを紹介致しますので、早めに神社庁までご連絡ください。

【そ の 他】

・ 申込書類は、不備があれば再提出を求められる場合があります。

・ 長期講習につき、体力に自信の無い方はその点充分にご検討の上でお申し込み下さい。

・ 新型コロナウイルス感染症対策として、検温等の健康観察を実施する場合がありますので御承知置きください。

※分割受講に関する事、願書請求、その他不明な点がございましたら島根県神社庁までお問い合わせ下さい。

〒六九九一〇七〇一
島根県出雲市大社町杵築東二八六番地
島根県神社庁
faxtel 〇八五三一五三一二四九
〇八五三一五三一二五八二

新任神職紹介



寺岡 悠馬
てらおか ゆうま

〔生年月日〕平成十三年

十一月七日生

〔住所〕鳥根県松江市東出雲町

揖屋二二五

〔奉職神社〕揖夜神社 権祢宜

〔就任年月日〕令和四年十一月二十日

〔趣味・特技〕ゲーム

〔ひとこと〕微力ながら神職として精一杯ご奉仕できればと思います。



平林 弥
ひらばやし ひさし

〔生年月日〕

昭和六十二年

九月二十一日生

〔住所〕鳥根県松江市東出雲町

錦新町一四一七

〔奉職神社〕磐坂神社 祢宜

〔就任年月日〕令和五年二月一日

〔趣味・特技〕読書、映画鑑賞

〔ひとこと〕神明奉仕の気持ちを持ち、日々精進する所存でございますので、何卒ご指導の程お願い申し上げます。



藤井 敏典
ふじい としのり

〔生年月日〕昭和三十年

三月二十七日生

〔住所〕広島県広島市安佐南区

上安五丁目十九一五

〔奉職神社〕劔玉神社 祢宜

〔就任年月日〕令和五年二月一日

〔趣味・特技〕スキー

〔ひとこと〕この度、以前父が勤めました劔玉神社祢宜を拜命致しました。



八幡 龍輔
やわた りょうすけ

〔生年月日〕

平成十二年

一月二十三日生

〔住所〕鳥取県境港市米川町六八一三

〔奉職神社〕伊勢命神社 祢宜

〔就任年月日〕令和五年三月一日

〔趣味・特技〕サッカー、サウナ

〔ひとこと〕伊勢命神社の長い祭祀の歴史が途絶えぬよう、氏子の方と協力し伝統を守る事に尽力いたします。



神白 智久
こうじろ ともひさ

〔生年月日〕昭和五十三年

四月十九日生

〔住所〕鳥根県安来市飯生町六四六

〔奉職神社〕

意多伎神社 祢宜・能義神社 祢宜

高津神社 権祢宜・八幡宮 権祢宜

〔就任年月日〕令和五年三月一日

〔趣味・特技〕ドライブ、野球

〔ひとこと〕日々精進いたします。宜しく申し上げます。



神白 由里子
こうじろ ゆりこ

〔生年月日〕

昭和四十三年

十二月九日生

〔住所〕鳥根県安来市飯生町六四六

〔奉職神社〕

意多伎神社 権祢宜・能義神社 権祢宜
高津神社 祢宜・八幡宮 祢宜
賀茂神社 祢宜

〔就任年月日〕令和五年三月一日

〔趣味・特技〕ドラマ鑑賞、修理

〔ひとこと〕まだまだ未熟者ですが、皆様のお力を借りながらお務めをさせていただきます。どうかよろしく願います。



初任神職研修

令和四年度初任神職研修を神社庁を会場に二月十八日、十九日、四月二十二日、二十三日の四日間で開催し、研修生十三名が研修を修了した。

研修生名簿

氏名	支部
佐草 勝美	八東
ホールひとみ	島後
日野 葉子	出雲
末岡 正次	鹿足
庄司 直子	出雲
河瀬 理博	出雲
宮能 幹典	大田
諏訪邊文則	八東
平林 卓也	八東
市橋 良弘	八東
朝山裕太郎	八東
和田 有司	出雲大社
藤浪 永吉	出雲大社

謝辞

令和四年度初任神職研修修了生を代表して一言お礼を申し上げます。

この度の研修会は二月と四月の計四日間で実施され、研修生十三名が受講させていただきました。

新型コロナウイルス感染症の影響により、さまざまな活動が制限される中での研修となりましたが、本日無事に修了の日を迎えることができました。

研修初日には、出雲大社の正式参拝を行い、神話の地「出雲」で学べることのありがたさを感じ、研修生一同、身の引き締まる思いで研修が始まりました。

受講するにあたり、講師の先生方から神社本庁の歴史や成り立ちをはじめ、神道の本義、宗教法人としての実務などについて丁寧にご講義いただきました。また、祭祀実技では、今までに身につけてしまった癖をご指摘いただき、緊張感のある雰囲気の中で、正しい作法を身につけるためには日々の勉強しかないということを実感いたしました。古来からの日本の生活と神

道との深いつながり、歴史的背景を知ったうえで、神職としての精神を養い、正しい祀りを行うっていくことの重要性を学びました。

この度の研修の中で、神職としての日常の心構えを再認識し、日々の感謝を忘れず、神道の教義を氏子・崇敬者に広め、大切に守り続けていくことの使命を新たにいたしました。

また、この期間中受講生の皆様方と交流することができました。今後も同じ仲間として、互いにこの絆を大切にしていけたらと思います。今後は研修で学んだことを生かし、神社に奉仕する身として日々研鑽していく所存でございます。

最後になりましたが、講義にて丁寧にご指導をいただきました講師の先生方、並びに研修の場を設けてくださった神社庁の皆様方に心より感謝申し上げます。

今後ともご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。お礼の挨拶とさせていただきます。

令和五年四月二十三日

修了生代表 庄司 直子

神職身分昇級

二級上

令和五年三月十日付 発令
 六所神社 宮司 吉岡 弘行

二級

令和五年二月十五日付 発令
 八幡宮 宮司 中 高 明
 鹿島神社 宮司 小 汀 泰之
 八幡宮 宮司 中 島 久 晴
 須佐神社 宮司 須 佐 建 央

功績表彰

令和五年二月三日付
第三条二号

王子神社 宮司 学 (邑智)
 勝 部
 住吉神社 宮司 正 (益田)
 綾 部

第三条三号

比太神社 責任役員 明 (能義)
 澤 田 直
 太詔刀命神社 総代長 則 (邑智)
 天 野 勝

名誉宮司称号授与

荒神社名誉宮司 (出雲市大社町)
 伊藤 征男 (令和五年三月十六日付)

神社庁職員異動

神社庁長辞令

録 事 平 林 卓 也
 (令和五年四月一日付)



(八束支部 磐坂神社権祢宜)

〔ひとこと〕神職として新

参者ですが日々研鑽を重ね、少しでも早く皆様の力になれるように努力します。至らぬ点も多々あると思いますがご指導ご鞭撻の程よろしくお願ひします。

神職帰幽

松江市上大野町 草野神社 宮司 家原 成宜
 令和五年一月十九日 享年七十九
 益田市川登町 八幡宮 名誉宮司 青木 理吉
 令和五年一月二十四日 享年九十二

飯石郡飯南町 塚原八幡宮

令和五年一月三十日 享年九十六
 名誉宮司 倉 橋 仁

松江市和多見町 賣布神社

令和五年二月十六日 享年七十五
 宮司 青 戸 昭 博

出雲市美野町 伊努神社

令和五年三月十日 享年八十五
 宮司 小 谷 優

出雲市湖陵町 三部八幡宮

令和五年四月八日 享年九十二
 名誉宮司 糸 賀 秋 臣

謹んで哀悼の意を表します。

島根県神社庁長 角 河 和 幸

三五六号掲載の故中林雅之宮司様
 帰幽報告に誤植がありましたので心
 よりお詫びいたします。改めて掲載
 させていただきます。

安来市伯太町 八幡宮

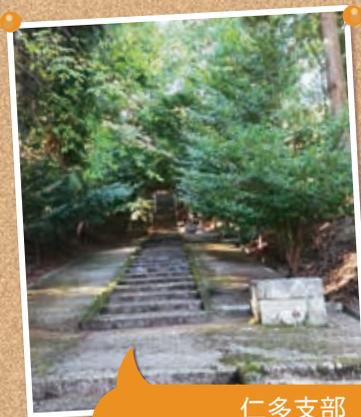
令和四年十月二十一日 享年六十九
 宮司 中 林 雅 之

神社フォトギャラリー

神社の社殿、神事・神賑行事、神社を含む四季折々の風景など、様々なお写真を募集します。



松江支部
眞名井神社
(廣江俊邦宮司様より提供)



仁多支部 伊賀武神社
境内から見た参道。
季節毎(春、冬)に違った表情を
見せてくれます。
(植田由紀子宮司様より提供)



浜田支部 濱田護國神社
令和の御大典記念で
植樹された
紅白の梅の木
(野上郁子権祢宮司様より提供)

写真送り先

〒六九九-〇七〇- 出雲市大社町杵築東二八六 島根県神社庁 録事 高見幸子 まで
Eメール takami@shimane-jijacho.or.jp
※ 神社名、神事・行事名や所在地、提供者のお名前を記載の上、お送り下さい。

次号までの締め切り **六月末日**

庁務日誌

(令和5年1月～3月)

- 1月4日 御用始祭
- 1月24日 新年祭 齋主 彌榮神社祢宜桑原秀幸(鹿足支部)
- 〃 正・副庁長会
- 〃 研修所講師会議
- 〃 教化委員会出雲部会役員会
- 〃 総代会出雲部会評議員会
- 〃 役員会
- 1月25日 支部祭式助教研修会 十四名参加
- 1月28日 教化委員会出雲部会支部責任者各号車引率責任者合同会議
- 2月7日 支部祭式助教研修会 十四名参加
- 2月15～16日 中国地区神社庁連絡会議 於 下関グランドホテル (角河庁長、忌部・篠田両副庁長、金築参事出席)
- 2月18～19日 初任神職研修会(前期) 十三名参加
- 2月18日 竹島領土平安祈願祭並時局講演会 於 いわみーる (角河庁長、和田主事参列)
- 2月21日 祈年祭併神宮大麻暦頒布終了奉告祭 齋主 物部神社 宮司中田宏記(大田支部長) 支部長会
- 〃 神宮大麻暦頒布終了祭 於 内宮神楽殿(角河庁長参列)
- 3月5日 神社庁長懇話会 於 本庁(角河庁長出席)
- 3月16日 全国神社庁長招宴 於 明治記念館(角河庁長出席)
- 3月17日 神社庁長会 於 本庁(角河庁長、金築参事出席)
- 〃 「皇室」普及委員会 於 本庁(角河庁長、金築参事出席)
- 〃 大社國學館卒業式 於 大社國學館(篠田副庁長出席)
- 〃 二級上・二級身分伝達式
- 3月28～29日 第2期過疎地域神社活性化推進施策研究会 於 本庁(邑智 三浦正典支部長、和田主事出席)
- 3月29日 島根県神社総代会出雲部会総会 於 安来市総合文化ホールアルテピア(牛尾理事出席)

本社☆ガール通信

神座と神名火山「朝日山」登山

佐太神社で行われた「第三回 神座(カムクラ)ー 神々への舞ー」に観覧&スタッフとして参加させていただきました。今回は「各地に伝わるご神体出現の舞」をテーマとして、宮崎県高千穂の夜神楽・隠岐の島町の久見神楽・出雲市の大土地神楽・松江市の佐太神能の四団体の出演です。

今回も観覧に来られるお客様は多く、受付で感染対策のために検温や連絡先を記載してもらつなど、スタッフは結構バタバタ。それでも合間をみて神楽を見せていただきました。

神座の翌月、朝日山へ登りました。『出雲国風土記』に「秋鹿郡神名火山は郡家の東北九里四十歩の所にある、高さは三三〇丈、周りは十一里ある。いわゆる佐太大神の社は、その山の麓にある。」と記されています。



登山道



登山道階段

登りやすく老若男女問わず人気の里山です。

登山前に、まずは佐太神社へ。お参りを終え、古浦側の登山口駐車場に向かいます。

参加者のほとんどはアウトドア派ではなく、山登りが初めてのメンバーもいました。そんな初心者の前に、整備された石段がそびえたちます。五四〇段あるのだそうです。一畑薬師の約半分、それでも登り始めには脚に来ます。この登山道は中国自然歩道として整備されており、海に近いにも関わらず、歩き進めると奥深い森の中を歩いているような気分になります。お地藏様が並ぶ札打ちの道を歩いて三四四mの西の峰へ。西の峰からは穴道湖の南、出雲の神名樋山「仏経山」が見え、北側には日本海の大海原。さあ、もうひと頑



かむくら
神座集合写真

張り、朝日寺と東の峰へ。途中、開けた場所に古い祠があり『朝日山の権現様』と書かれています。見るとここが朝日寺の大元となる場所です。朝日山権現様をお祀りしているとあります。パワーをいただき、あともう少し。

朝日寺に到着。青空が見え、これだけでも登ってきた疲れが吹っ飛びます。

東の峰からは松江平野も眼下に広がり、穴道湖一望、遠くに大山も見ることができました。

山頂まで約一時間、初めて山登りに挑戦したメンバーからも、「登らなくては見られなかった絶景でした。」と嬉しい感想を聞くことができました。また社☆ガールで山に登る企画をしたんです。

仁多支部だより

三成八幡宮宮司 陶山浩嗣

仁多郡奥出雲町三成の連担地を眼下に見下ろす標高二百五十三メートルの山上に愛宕神社が祀られている。

創建は、正徳元年（一七一一年）七月二十四日愛宕大権現勧請の棟札があり、当時三成の町に火難が頻発したことから町の有力者が京都愛宕山から分霊を請け、火難防除の守護神として勧請されたと云われている。

毎年八月二十四日、二十五日に催される「あたご祭」は雲南地方屈指の夏祭りです。郡内はもとより周辺市町村、遠くは広島県の県境周辺地域からも人出がある賑やかな祭である。この祭の運営の特徴は輪番の当家制にある。神社正面の本町通りから選任される本当家を責



本町通りの賑わい



任者とする五人の当家が祭典・神賑行事等の一切を取り仕切るのである。そしてその年の当家は、五月の当家交替奉告祭を終えると祭に向けて計画を立て、寄付集めに、諸機関との調整等にと奔走するのである。

またもう一つ、この祭の象徴となつてるのが「まぼろしの一夜城」である。これはある時、当時の三成の若連中が町の人々を驚かそうと一計を案じ、密かに準備をして一夜のうちに山上に竹を組み、和紙の城を建てたことに始まったと言われている。現在でも毎年、祭が近づくと布製の城を建て、裏に電球を配して不夜城を現出するのである。

二十四日の本祭当日は、午前中に例大祭を斎行し、夕方が近づくと多くの露天商が通りの両側に軒を連ねる。やがて陽が落ち、一夜城と山上に続く九十九折

参道の行灯に灯が入ると、通りは車の通行が止められ人々で溢れかえる。常設舞台からは神楽囃子が響き渡り、通りでは近在から繰り出す思い思いの装いを凝らした「仁輪加」が、神輿・踊り・太鼓などを披露しながら練り歩き、歩行も困難なほどの賑わいとなる。花火が夜空を焦がす頃には祭の最高潮を迎えるのである。だが、毎年楽しみのこの光景は、新型コロナウイルス感染症の流行により一変し、令和二年は神事のみ、令和三年四年は神賑行事縮小実施を余儀なくされ、かつての賑わいが失われてしまった。しかし、



一夜城

中国山地の山懐で長い時をかけて培ってきた大切な郷土の伝統行事である。必ずこの困難を乗り越え、再び子ども達の歓声と町民の笑顔を取り戻すことであろう。

編集後記

コロナが少しづつ落ち着きを見せはじめた中、新年度を迎えた。ここにきてようやく周囲が動きだしたように感じる。かくいう私も、子どもがこの春から保育施設に入園し、毎朝が今まで以上に慌ただしくなつた。子は子で早くも新しい環境に楽しみをおぼえたようで、毎日嫌がることなく通っている。子どもの適応能力には驚かされる。五月八日にはコロナも五類に分類され、社会的にも大きく動き出すことが予想される。神社界においても、これまで中断してきた神賑行事も徐々に行なわれるであろう。「社会」とは「社」にて「会」と書く。人々が神社に集い、地域の決め事や情報交換を行なう姿からできたといわれている。これからの社会活動が神社を通じて良い方向に進むことを春の一日に願う。(右)

島根県神社庁報(第三五七号)
発行日 令和五年五月二十日
発行者 島根県神社庁
編集 広報委員会
委員長 陶山 浩正 委員 鳥屋尾 浩
副委員長 宮能 壮充 委員 江角 恵
委員 石崎 彰矩